

# 道が3ダム事業で1056億円増額

## 知事「事業費増額行わない」約束守らず

高橋知事は12月議会にサンルダム事業費を32億円増額するため知事意見の同意を議会に求めました。サンルダムは2016年に31億円増額したばかりです。知事は「今後、総事業費の増額を行わない」と意見を付しましたが、一向に守られません。

真下議員は「16年に『総事業費の増額を行わない』とした知事意見の重みをどう理解し、さらなる増額に整合性があるのか」を知事に質しました。高橋知事は、「昨年の経緯を踏まえて変更内容を厳しく精査の上、意見を付すこととした」とのべ、国が設置した外部有識者による「工程コスト検討委員会」での審議とコスト縮減、新たに明らかとなった透水性の高い地質への対応や大雨による地下水

### 交渉経過の記録提出を



国直轄事業には道負担を伴うため、道は国に対し十分な説明を求める必要があります。真下議員は「32億円もの増額に関し国からの説明をどう検証し、納得し、提案に至ったのか」とさらにたどりました。知事は、国からの聴き取りや資料提供によつて厳格に精査した。総事業費の算定は妥当」と強弁したものの「今後、総事業費の増額を一切行わない」「徹底したコスト縮減と十分な情報提供」を加

えた知事意見として同意したいと答えました。しかし真下議員は「この交渉経過を記録した文書がない」と指摘。「議会に交渉経過を文書として提出すべき」と特別発言で質問し、知事は「適切に対処する」と答弁しました。

### 議場ざわめく巨額な増額

「サンルダムのほか二風谷ダムと平取ダムを建設する沙流川総合開発事業、新桂沢ダムと三笠川総合開発事業の3ダム事業が当初計画からいったいいくらの増額か」と真下議員が質問。知事は「当初の総事業費約1770億円から今回のサンルダムの変更を含め、約1056億円を増額し、約2826億円となっている」と、あまりの巨額な答弁に議場がざわめきました。

## JR北海道社長らを参考人招致へ 全路線維持を原則に議論を

真下議員は地方路線問題調査特別委員会でJR北海道が単独路線維持困難とする問題で、現状の路線維持を原則とすること、資料公開と新幹線の赤字議論などを求めました。

### 廃線ありきの議論にくぎ

真下議員は議論の冒頭「JR北海道の厳しい経営状況を生んだ原因は、国による30年前の国鉄分割民営化強行の際、赤字経営を前提とした経営安定基金の運用益が超低金利政策で行き



詰ったこと、同時に安全対策を怠り重大事故を起こし、突如道民にJR北海道が単独で路線を維持できない線区を発表したところ」と厳しく指摘し、「JR北海道は地方公共交通を担う事業者としての責任放棄ではないか、という意見がでる程」とのべ、廃線ありきではなく慎重な議論を求めました。

鉄道交通担当課長は「道民の暮らしや産業経済にこれまで果たしてきた鉄道網の役割を踏まえると拙速な見直しはあってはならない」と答えました。

真下議員は「道がJR北海道の自助努力を求めるだけでなく老朽化施設の更新に対し国から受けた融資の返済猶予も検討すべき」と求めました。また、度重なる事故を踏まえ安全対策、法令順守の徹底、日高線の早期復旧などとともに、観光客の鉄道利用促進、旭川市を中心とする宗谷線・石北線・富良野線の利用状況調査も踏まえた対応と実効ある国への要望も求めました。

委員会終了後の理事会協議で、真下議員が求めた資料提供と新幹線の赤字議論が認められた。今後議論を深めるため2月にJR北海道社長らを参考人招致することを全会派で合意。参考人招致は2月26日を軸に調整、議会傍聴もできます。

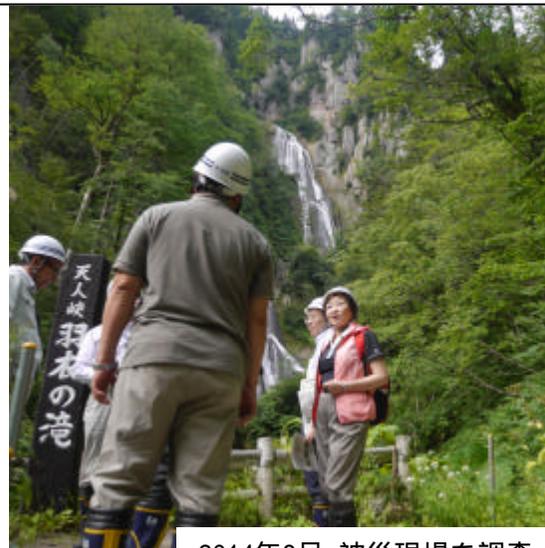
# JR深川駅 念願！エレベーター完成



深川駅の階段と昇降機を調査する  
真下議員（2015年5月21日）

1万人を超える署名を集め、設置を熱望されていたJR深川駅のエレベーターが設置され、1月21日に完成式典が行われ、真下議員が駆け付けました。

「階段がきつく十数年JRを利用していない」など、車イス利用者や体の不



2014年8月 被災現場を調査

# 天人峡遊歩道 5月通行再開へ 復旧後の観光支援 道が表明

真下議員は1月11日の食と観光対策特別委員会で、長期間閉鎖が続く天人峡遊歩道の通行再開とその後の観光振興を求めて質問しました。

## 通行再開を切望

道内最大の落差を誇る東川町の天人峡・羽衣の滝は「日本の滝百選」にも選ばれ、多くの行楽客が訪れる貴重な景勝地として道内外から親しまれています。ところが、2013年と2016年の大雪・大雨による大規模な土砂崩れ等が重なり、遊歩道が閉鎖されました。観光客も減少し、地元を中

## 現地調査し国と道へ

真下議員は2014年8月、市田忠義参議院議員の秘書らと崩落現場を調査し、ホテル関係者や東川町等から実態を聞き、国と道に早期復旧と観光支援を求めてきました。16年9月、真下議員の質問に対し高橋知事も「長期にわたる不通により、天人峡温泉では客単価の下落や日帰り入浴客の激減など厳しい状況が続いている」と認識を示し、補正予算を計上しました。

## 広域周遊観光を支援

11日の特別委員会で真下議員は「自然災害からの復興は北海道観光にとって重要な課題です。固い決意をもって観光の振興にとりくむべき

自由な人、高齢者や乳幼児を抱える母親からエレベーター設置への切実な声が寄せられていました。



「深川駅にエレベーターを望む会」が結成され、老人クラブや障害者団体、町内会にも声をかけ、1万525人分の署名をJR北海道に出しました。真下議員は現地を調査し代表質問で高橋はるみ知事に支援を要請。山下貴史深川市長は「道議会できちんとあけていただいた」とあい

ではありませんか」と観光支援について質問しました。

## 観光振興局参

事は、「17年11月に工事が終了し安全を確認で



きる雪解け後の今年5月、通行を再開する予定」と表明し「地元協議会では『復興祭』などのイベント開催が検討されている」と回答。

木本晃観光振興監は「地元や大雪カムイミントラDMOなどと連携し天人峡を含めた広域周遊観光のとりくみを支援する」と表明しました。

## 街頭から

## 除排雪の申し入れを報告

旭川市は積雪が続き、冷え込みも厳しくなっています。マイナス18まで冷え込んだ1月13日、真下議員は定例の議会報告で旭川市に迅速な除雪を申し入れたことを報告しました。その後除排雪は進んでいますが、道路脇は雪山で見通せないほどです。

真下議員は「はつらつ道政報告」などを手渡ししながら、改憲をめざす安倍首相と高橋知事の下でも「国民が望む戦争しない国へ憲法9条を守りましよう！」と呼びかけました。



さつで紹介し、謝意を表しました。「望む会」の加藤廣一会長（上の写真）は「こんなに早く実現するとは思っていませんでした。署名が大きな力になりました。障害者用トイレも整備され誰にとっても使いやすくなりました」と話していました。